

抵抗性台木を用いたイチジク株枯病防除技術の開発

1 中核機関・研究総括者

大阪府立食とみどりの総合技術センター 細見 彰洋

2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

近年、イチジク主産県においては土壤病害である「イチジク株枯病」が蔓延し、産地を搖るがす重大な問題になっている。そこで、抵抗性台木を用いて本病を確実に回避する技術を開発する。

そのため、最適な抵抗性台木の選抜、接ぎ木法の開発、台木使用樹の密度管理と栽培法の指針化を行う。

4 研究内容及び実施体制

① 台木に適した抵抗性イチジクの選抜（福岡県農業総合試験場豊前分場、愛媛県立果樹試験場、大阪府立食とみどりの総合技術センター）

菌の精密検出や樹勢の迅速評価法を用い、既存品種やその交配系統の中から、樹体内での病原菌の拡散が少なく、良好な樹勢を維持できる台木を選抜する。

② 抵抗性台木への接ぎ木法の開発（大阪府立食とみどりの総合技術センター、福岡県農業総合試験場豊前分場）

防除効果と良好な樹勢を両立できる接ぎ木法を開発する。

③ 台木使用を前提とするイチジク栽培法の解明（大阪府立食とみどりの総合技術センター、大阪市立大学、福岡県農業総合試験場豊前分場、愛媛県立果樹試験場）

抵抗性台木を使用したイチジク「榎井ドーフィン」、「蓬莱柿」の密度管理と栽培法の設計を行う。

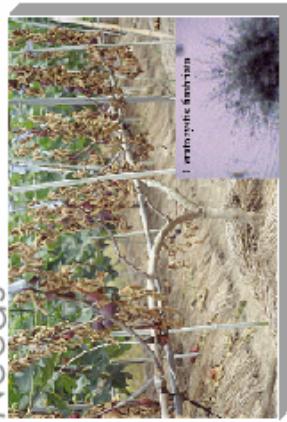
5 目標とする成果

株枯病抵抗性台木を用いた確実な防除法が開発される。これにより、生産放棄などの危機的状況を開拓できる。また、連年に渡る土壤への薬剤投入を不用にし、環境に配慮したイチジク栽培を実現できる。

抵抗性台木を用いたイチジク株枯病防除技術の開発

- 1 台木に遭した抵抗性イチジクの選抜
- 2 抵抗性台木への接ぎ木法の開発
- 3 台木使用を前提とするイチジクの栽培法の解明

Needs



深刻な株枯病

完治できず被害が拡大。
環境に配慮した防除が必要。

Seeds

抵抗性の品種や系統

でも、生長が弱く実が小さいのでそのままでは生産に使えない

そこで・・・

Succed 抵抗性台木を実用化
・產地の崩壊をくい止め
・環境に負担を掛けない



2

接ぎ木法を開発する

- ・菌からの隔離と樹勢が両立する接ぎ木位置を解明
- ・中間台木を活用して樹勢を強化



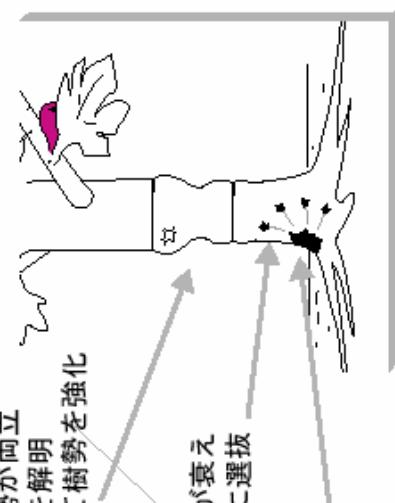
台木を選ぶ

- ・菌拡散が少なく樹勢が衰えない品種を選抜

1

菌の拡散を知る

- ・PCRで菌を精密に検出
- ・菌の挙動を解明



3

- 最適な栽培法を決める
- ・イチジクの密度効果の解明
- ・抵抗性台木を用いた栽培法の設計